博物館学雑誌第11巻第1号（通巻13号）42～48ページ 1985年11月

北海道の私立大学生の学芸員課程に対する意識調査をめぐって

On the Student's Attitudes to the Museology Course at Private Universities in Hokkaido

片桐宏理*
Hiroaki KATAGIRI

1 はじめに

北海道の諸大学のうち学芸員課程を設置している大学は6大学である。うち国立大学は，北海道大学，北海道教育大学札幌分校，北海道教育大学釧路分校の3校，私立大学は道都大学，札幌大学女子短期大学（学芸員補），札幌学院大学の3校である。

筆者は前稿「札幌商科大学における学芸員課程の設置と今後の課題」(注)において札幌学院大学を事例として学芸員課程設置に至る経緯について若干の考察を試みたが，その際特徴的な事柄として，北海道の私立大学における設置課程にかかわる時代的，社会的諸条件を挙げておいた。

実際，道内の私立大学の設置年度は道都大学昭和57年，札幌大学女子短期大学昭和57年，札幌学院大学昭和54年となっており，それぞれ教育目標，カリキュラム内容等異なるとはいえその設置はほぼ同一の時代的，社会的条件を背景としていることが推測される。

北海道では，昭和45年から昭和53年までの間に30館を越える博物館，郷土館その他の社会教育施設および文化施設が開設されている。その後も年々増加し続け，学芸員とその養成課程への需要はこの動向に対応して増大していると考えられる。北海道の私立3大学における学芸員設置年度はまさしくこうした時代的，社会的条件との対応によるものであった。学芸員という職種および，その養成課程である各大学の学芸員課程は，文化的事業への全体的な関心の高まりに呼応する形で大きな注目を浴びる存在として社会的に認知されてきたと言える。

さて本稿は，筆者が昭和60年4月のガイダンスの期間に，各大学の担当者の協力を得て行なった一般学生（新入生）の意識調査の結果を報告することを目的としている。

学芸員課程設置をめぐる大学側の状況については既述したとおりであるが，それに対する学生側の反応，とりわけ学芸員資格に対する認識度を確認することが必要となった。さらに同課程の今後のより一層の発展的方向を見定めるために不可欠であるという理由から，今回の調査は行なわれたものである。

今回の調査は，学芸員課程を設置している北海道の私立大学，短期大学3校の新入生308名を対象としている。その内訳は道都大学（紋別市）美術学部25名，札幌大学女子短期大学（札幌市）文化学科85名，札幌学院大学（江別市）人文学部人間科学科128名，英語英米文学科70名となっている。

2 調査内容について

今回の調査に当たって筆者は，前述したとおり必ずしも学芸員課程を履修するとは限らない学生も含めて対象とすることとした。これは，同課程に対するごく一般的な認識度をも併せて確かめるためである。調査を依頼し

＊かたぎりひろあき
札幌学院大学

連絡先（勤）札幌学院大学
江別市文京台11番地
TEL 011−386−8111

た各大学はいずれも学芸員課程を設置している大学である。したがって学芸員課程履修の機会が保障されているこれらの大学の学生がどの程度の認識と関心をそれに対して示しているか，また，その程度は他の諸資格（社会教育主事，社会福祉主事，図書館司書，教職課程）に比してどうであるかが明らかとなるであろう。

調査は次のようなアンケート方式で行なった。

学芸員課程の意識調査

＊以下　はい，いいえの選択の場合は○を，（　）には妥当なものを記して下さい。

1. あなたの性別
   ① 男性　② 女性
2. あなたの出身の市町村名をお書き下さい。
3. 博物館学芸員という言葉を知っていますか。
   ① はい　② いいえ
4. 3.ではいと答えた人に聞きます。いつごろ知りましたか。
   ① 小学（　）年生のころ知った
   ② 中学（　）年生のころ知った
   ③ 高校（　）年生のころ知った
   ④ その他（　）
5. あなたの出身地の市町村には，博物館（郷土館，民俗資料館）がありますか。
   ① はい　② いいえ　③ わからない
6. 出身地の市町村にある博物館を見学したことがありますか。
   ① はい → a．小学（　）年生のころ見学した。
   b．中学（　）年生のころ見学した。
   c．高校（　）年生のころ見学した。
   d．その他（　）
   ② いいえ
7. あなたの出身地の市町村に美術館がありますか。
   ① はい　② いいえ　③ わからない
8. 出身地にある美術館を見学したことがありますか。
   ① はい → a．小学（　）年生のころ見学した。
   b．中学（　）年生のころ見学した。
   c．高校（　）年生のころ見学した。
   d．その他（　）
   ② いいえ
9. 大学に入学して学芸員の資格を取得しますか。
   ① はい　② いいえ　③ 未定
10. 大学を選択する際に学芸員の資格を取得できることに重点をおきましたか。
   ① はい　② いいえ
11. 資格を取得して卒業後に博物館（郷土館，民俗資料館等）に勤務する希望を持っていますか。
   ① はい　② いいえ　③ わからない
12. 資格を取得して卒業後に美術館に勤務する希望を持っていますか。
13. あなたは次の資格について知っていますか。また，いつごろ知りましたか。
   ① 社会教育主事；小学（　）年生のころ知った。
   中学（　）年生のころ知った。
   高校（　）年生のころ知った。
   その他（　）
   ② 社会福祉主事；小学（　）年生のころ知った。
   中学（　）年生のころ知った。
   高校（　）年生のころ知った。
   その他（　）
   ③ 図書館司書；小学（　）年生のころ知った。
   中学（　）年生のころ知った。
   高校（　）年生のころ知った。
   その他（　）
   ④ 教員資格；小学（　）年生のころ知った。
   中学（　）年生のころ知った。
   高校（　）年生のころ知った。
   その他（　）
   ⑤ いずれも知らない。
14. あなたは13.の質問にかかげられている資格を取得したいと思いますか。（具体的な資格を書いて下さい）

ご協力，どうもありがとうございました。

アンケートの設問は全14問であるが，筆者はこれを大きく4つの分類から成るものを考えている。その内訳をいえば次の通りである。

① 問1，問2は男女の比率，入学生の出身地に関する問である。

② 問3，問4は学芸員という職業に対する一般的な認識度に関する問である。

③ 問5，問6，問7，問8は博物館関連諸施設への関心度に関する問である。

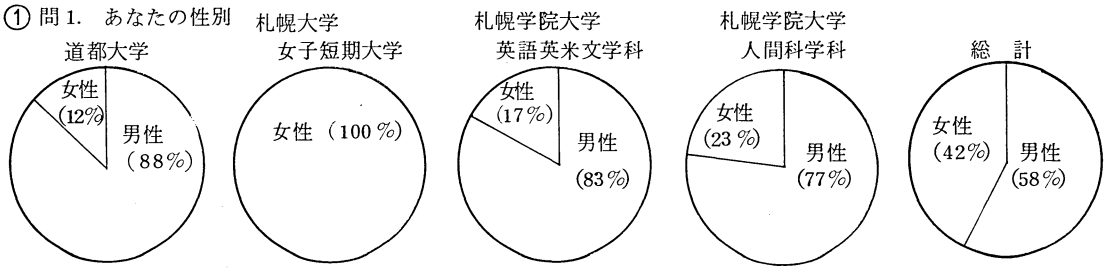
④ 問9，問10，問11，問12は大学の学芸員課程

に対する認識度，問13，問14は学芸員を除く他の諸資格の認識度に関する問である。以下，①，②，③，④と表記する場合には，前記の分類にしたがっているものとする。

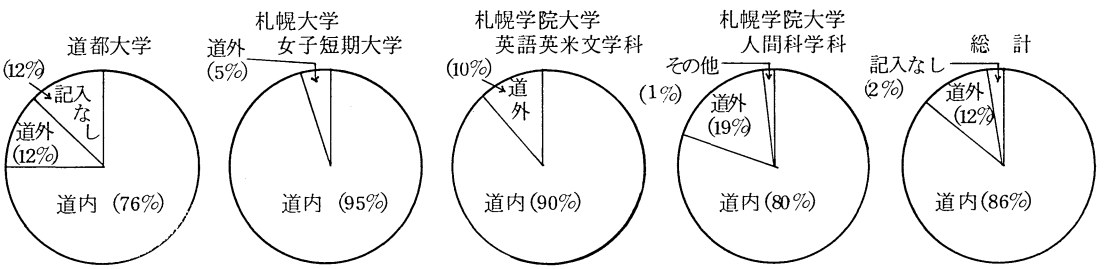
3　調査結果について

調査結果については次に掲げるように，各設問に対する答を比率（%）で表わし，さらに円グラフで示すことにした。分類にしたがって，以下結果の内容を考察してゆく。

① 問1.　あなたの性別

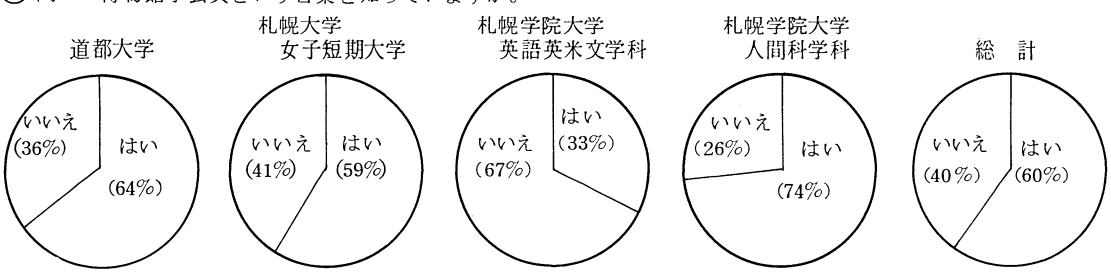


問2.　あなたの出身の市町村名をお書き下さい。

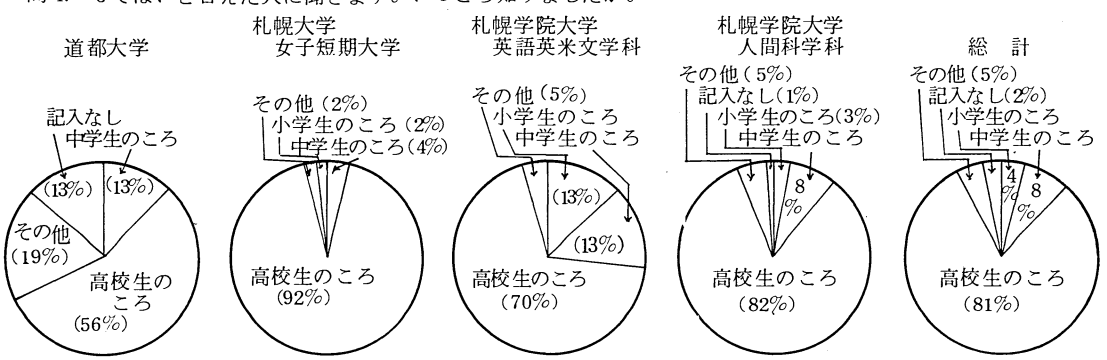


道都大学，札幌学院大学では，男性が多数を占めているが，札幌大学女子短期大学は女子のみである為，総計では男女比が接近している。出身地は，圧倒的に道内勢が多い。

② 問3.　博物館学芸員という言葉を知っていますか。

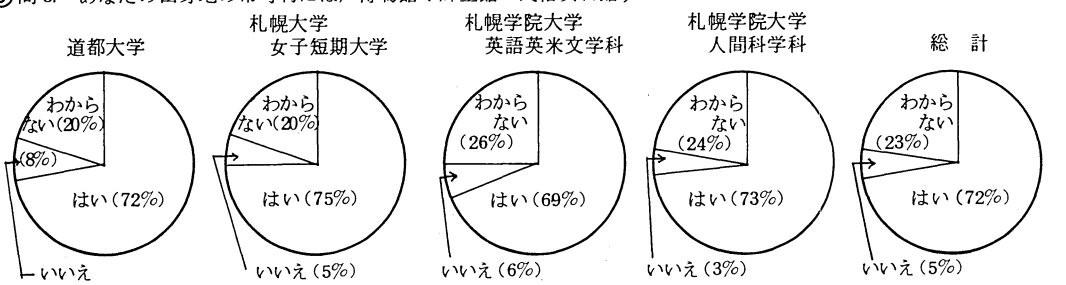


問4.　3ではいと答えた人に聞きます。いつごろ知りましたか。

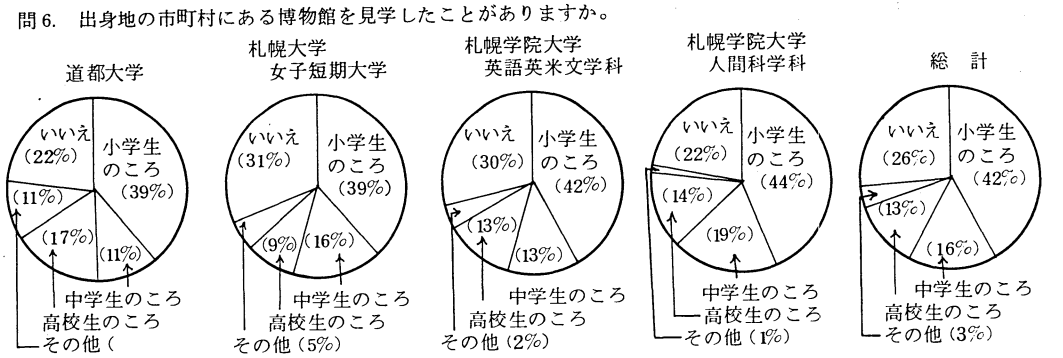


学芸員という職業に対する認識度は総計では６０％となっている。ただし，札幌学院大学英語英米文学科は他に比べて低いが学科の特殊性によるとみられる。学芸員を知った時期は小中学校あわせて１２％，高校時代が８１％と圧倒的に後者が高い。調査対象校がいずれも課程を設置していることを考えれば大学選択の際手掛りとして考慮する機会があったと思われる。また，逆にいえば一般的な職業としては認識が低いことを示しているだろう。

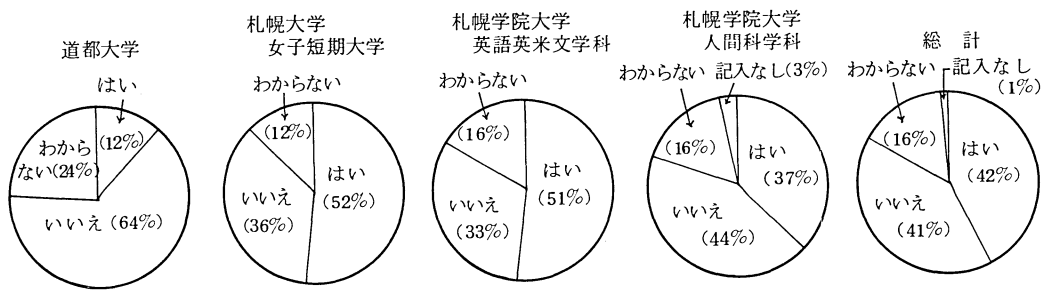
③問 5. あなたの出身地の市町村には，博物館（郷土館・民俗資料館）がありますか。



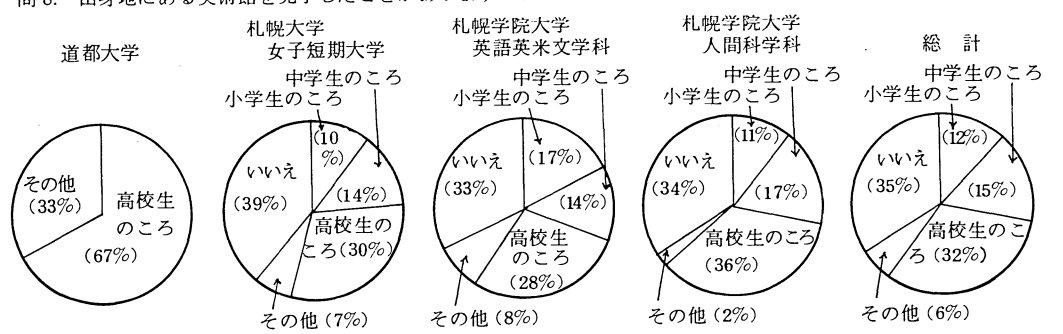
問 6. 出身地の市町村にある博物館を見学したことがありますか。



問 7. あなたの出身地の市町村に美術館がありますか。

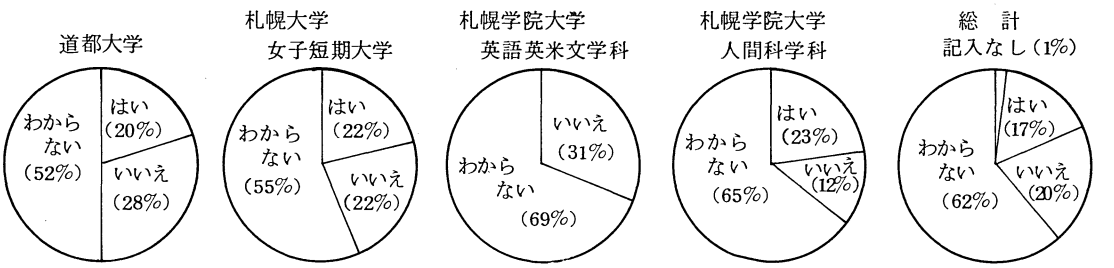


問 8. 出身地にある美術館を見学したことがありますか。

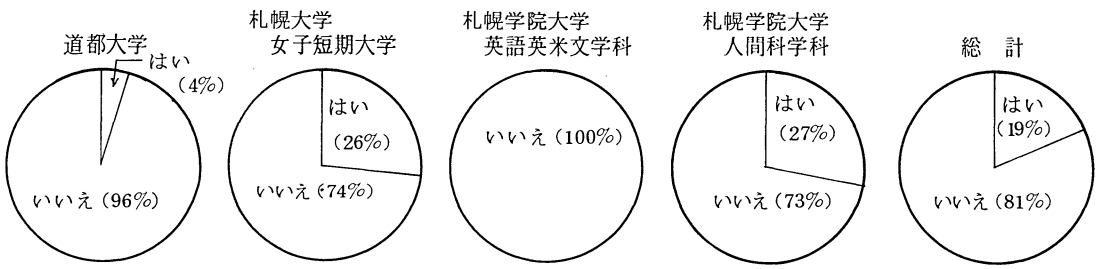


出身地に博物館があることを知っている者が７２％。これに対して，「わからない」と答えた者が２３％である。見学については，小学生のころが４２％と高く，中，高と高学年になるにつれて低くなっている。低学年において，学校単位で使用する機会が多い為と思われる。美術館があることを知っている者が４２％「わからない」と答えた者が１６％である。但し，この比率をこのまま博物館の場合と比較すべきではない。なぜなら，博物館に比べて，美術館の設置数はかなり少ないとみられるからである。美術館の見学経験は興味深いことに，博物館の場合と逆に高学年になるにつれて高くなっている。これは，博物館に比べて美術館がより限定された特殊な性格をもつ為と思われる。

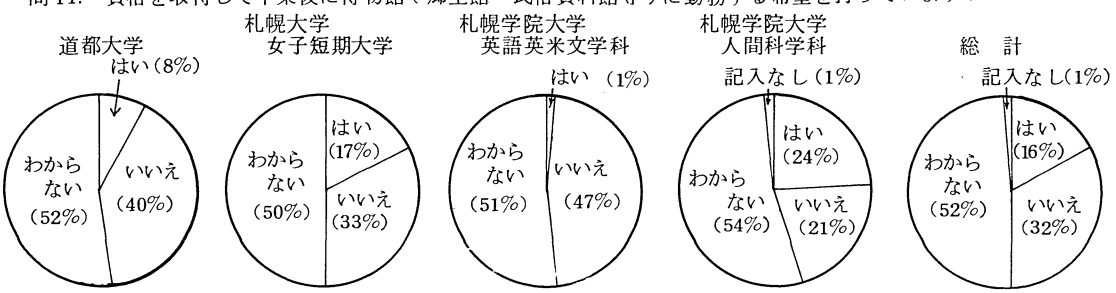
④問9. 大学に入学して学芸員の資格を取得しますか。



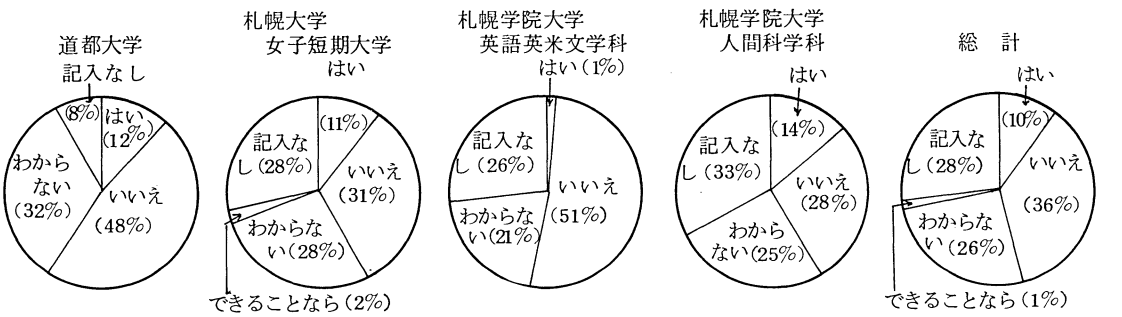
問10. 大学を選択する際に学芸員の資格を取得できることに重点をおきましたか。



問11. 資格を取得して卒業後に博物館（郷土館・民俗資料館等）に勤務する希望を持っていますか。

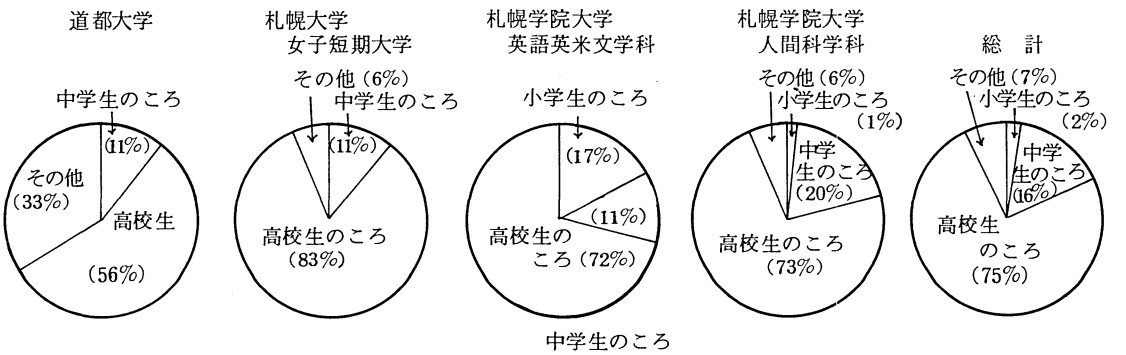


問12. 資格を取得して卒業後に美術館に勤務する希望を持っていますか。

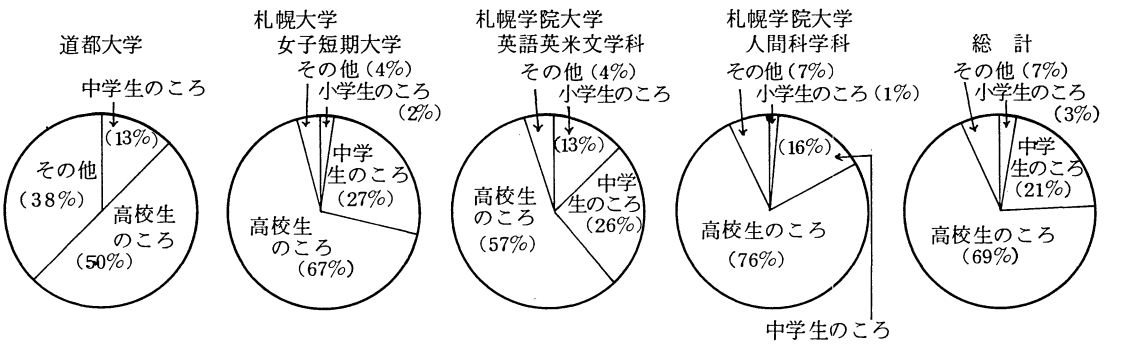


問13. あなたは次の資格について知っていますか。またいつごろ知りましたか。

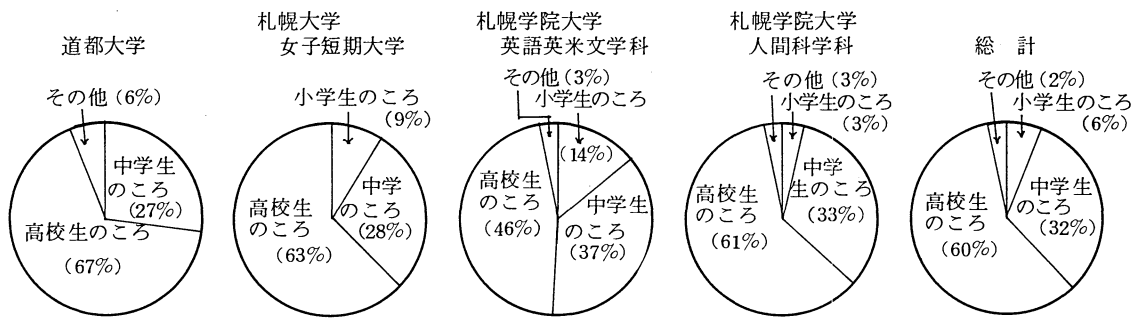
① 社会教育主事



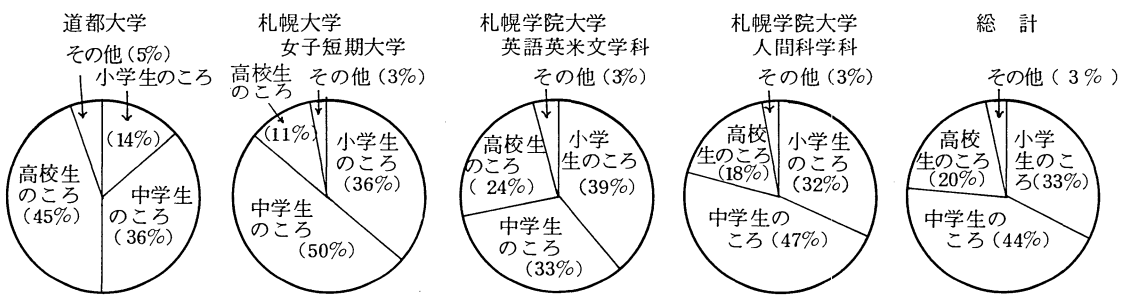
② 社会福祉主事



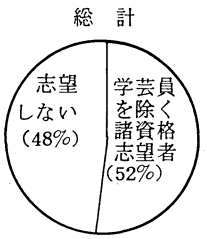
③ 図書館司書



④ 教員資格



問14. あなたは，13の質問にかかげられている資格を取得したいと思いますか。



大学に入学して学芸員の資格取得を目ざすか，否かについては，目ざすと答えた者が１７％である。これに関連する他の３問についても多少の誤差はあるものの，ほぼ同じ比率を示している。その意味では，課程を設置している大学でさえ学生の関心度は低い。ここに表われている関心度は，さらに他の諸資格との比較で検討する必要があろう。

②の項ですでに明らかなように学芸員資格についての認識度は６０％であった。一方，社会教育主事は５２％，社会福祉主事５１％，図書館司書７６％，教員資格９３％となっている。これら学芸員を除く諸資格の志望者の割合は全体として５２％である。このことから他の諸資格に比べて学芸員志望者はかなり低いといえる。

4　まとめ

本稿の目的は，学芸員資格課程に対する学生の認識度を確認することであった。項目②で示されているように，学芸員という職業については６０％の学生が知っていることになる。また，項目③で分かるように博物館，美術館に代表される諸施設の利用を見てもさほど認識が低いとは思われない。にもかかわらず，④の項目で明らかなように，他の諸資格（５２％）に比べて資格取得に関する志望率は著しく低い（１７％）ことが分かる。

全体的に言えば，他の諸資格に比して，学芸員の場合，認識度と志望率の落差が生じているのかについては，今回の調査自体からその理由を導き出すことは残念ながらできないが，これは今後の課題となろう。

注．博物館学雑誌第９巻第１号・第２号合併号（通巻１１号）４０～４２ページ　1984年３月。

最後に，本稿作成に当っては，札幌大学女子短期大学教授石附喜三男氏，また，道都大学講師新田隆氏のご協力をいただいたことを記して謝す次第である。